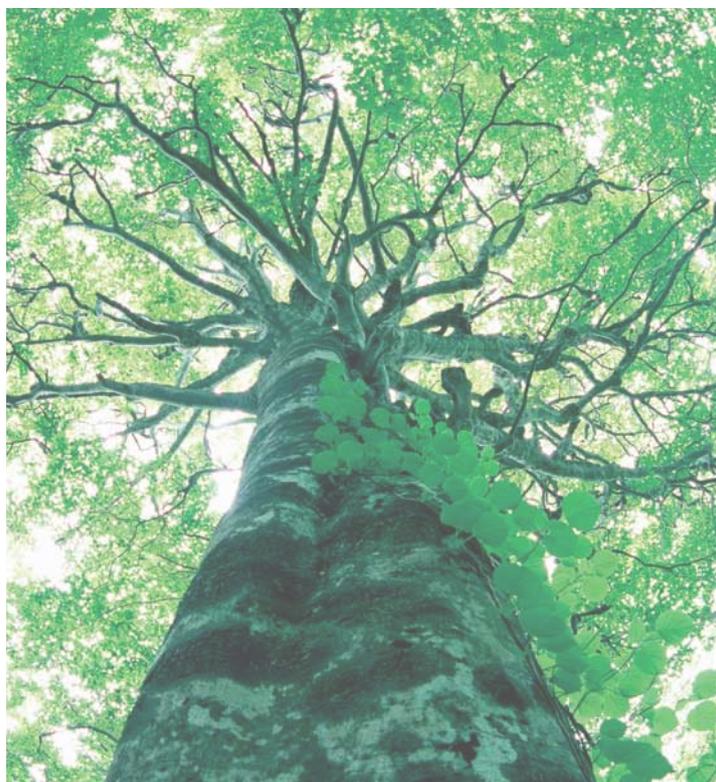


Corporate Social Responsibility Report



# CSRレポート 2014

事業・社会・環境活動についての報告書



いつもの暮らし  
いつものコープ



京都生活協同組合

# CSRレポート 2014 発行にあたって



理事長 渡邊 明子

このレポートでは、事業体であり、消費者組織でもある生活協同組合の特質を総合的に捉え、社会的責任という側面からの到達を報告しています。

生協の事業は組合員のニーズに基づくものですが、事業領域が広がれば環境への負荷は増加していきます。利用者である組合員とともに環境負荷削減の必要性を学び、共有化することが大切です。2013年度は残念ながら一部達成できなかった環境項目もありますが、継続して環境負荷削減に取り組めます。

地域社会との関わりでは、行政や関係諸団体との「配達時の見守り協定」が府下13箇所に広がりました。また、府内の一般社団法人と連携して、2店舗の屋根を貸して府民出資による太陽光発電設備を設置し、京都府初の「府民力活用プチ・ソーラー発電支援事業」の対象事業にもなりました。これらの取り組みがすすめられたのは、この間の京都生協の事業活動に対し、行政や府民の方々から一定信頼が頂

けたことによるものと受け止めています。

東日本大震災から3年が経過しましたが、被災地の復興は歩みが遅く胸が痛みます。これからも全国の生協と力を合わせ、でき得る支援を息長く継続するとともに、災害に備えることも重要な課題です。2013年度は大規模震災や豪雨災害などを想定した事業継続計画を策定しましたが、被災地生協の教訓に学び、防災という側面からも地域関係諸団体とのネットワーク構築を積極的にすすめます。

京都生協は本年11月に創立50周年を迎えます。1994年の第30回通常総代会で大きな赤字での決算となって以降、長期借入金や多額の組合債の返済処理などに20年近くを費やしましたが、大きな節目の年を前に、経営については一定改善の責任を果たすことができました。これからも、新21世紀ビジョン「わたしのくらし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔を」の実現をめざし、社会的存在としてふさわしい活動をすすめてまいります。

## INDEX

### 7つの社会的責任についての報告

1. よりよい商品・サービスの提供	3
2. よりよい職場づくり	5
3. 公正な取引と協力・共同の関係づくり	6
4. より環境負荷の少ない事業・活動	7
5. 地域社会の一員としての役割発揮	13
6. 情報開示と説明責任	16
7. 健全で強い事業経営への責任	18
グループ会社の環境保全の取り組み	19
監査	20
第三者意見	21
第三者意見を受けて	22



### 50周年ロゴマーク・キャッチフレーズ

組合員のみなさんに広く呼びかけ、50周年記念ロゴマークの投票とキャッチフレーズの募集を行い、選定しました。

# 京都生協のめざす姿

## 『新21世紀ビジョン』の実現

「わたしの暮らし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔を」

### 実現

#### 1. 組合員満足

生協の商品やサービスを利用することで、組合員が安心して笑顔で暮らせること。

#### 4. 地域社会への役立ち

京都の地に根ざした生協として、地域の経済や文化、コミュニティに貢献し、社会的存在にふさわしい事業と組合員参加を促進していること。

#### 2. 組合員参加

自分たちの願いを実現するために、組合員が商品・サービスの開発・見直し、運営の改善、暮らしの向上の取り組みに参加し、生き生きと活動していること。

#### 3. 職員満足と能力発揮

職員一人ひとりが京都生協のめざす姿を共有し、創意工夫し、能力を発揮していること。組織能力が向上していること。

#### 5. 経営の安定

安定した経営を実現していること。

### 京都生協が考える社会的責任

事業をすすめる組織として、人権尊重・法令順守は当然のこととしてとらえ、それ以外にも取り組むべき社会的責任についてISO26000(社会的責任に関する手引)を参考に7項目に分けまとめています。

1 よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を追求します。

2 誰もが健康でいきいきと働き続けられる職場づくりをすすめます。

3 取引先と対等な立場で、公正な取引と協力・共同の関係づくりをすすめます。

4 より環境負荷の少ない事業・活動をすすめます。

5 地域社会の一員としての役割を積極的に担います。

6 組合員参加・コミュニケーションを促進し、情報開示と説明責任を果たします。

7 健全で強い事業経営を築き、組合員から負託された経営責任を果たします。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# 1

## よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を

2013年度は…

- 放射性物質の問題や、食品添加物・農薬などの基準見直しに伴う組合員学習会を実施しました。
- 個配手数料を値下げしました。
- 2店舗を改装しました。

### 食の安全を確保する取り組み

#### 微生物検査

商品が衛生的に製造され、安全であることを確認するために微生物検査を実施しています。対象は京都生協コープ商品、店舗で製造された刺身や寿司、揚げもの、産直卵、子会社である(株)京都協同食品プロダクトで製造された刺身や肉などです。店舗の調理に使用される器具のふき取り検査や、整理整頓の状況なども目視調査を行っています。2013年度は2887検体の微生物検査を実施しました。

#### 理化学検査

日本生協連やコープきんき事業連合の商品検査室などと協力しながら、京都生協コープ商品や産直商品の放射性物質、残留農薬、残留動物用医薬品、カドミウム、遺伝子組み換え、食品添加物、卵の品質検査を行っています。放射性物質検査は、福島県に隣接する地域で栽培した産直商品を中心に検査を行い、この間はすべて検出限界以下でした。他の検査も法的基準以内であったことを確認しています。

※検査結果についてはホームページで公表しています。



コープきんきの検査センターでの農産物農薬検査

#### 京都生協コープ商品の点検

定期的な工場点検を実施し、商品が仕様書どおりに製造されていること、工場内の整理整頓が行われていること、工場内の衛生管理が正しく行われていることなどを確認しています。特に衛生管理に関することや異物混入の防止対策については重点的に確認します。問題が発見されれば改善を要請し、実施されているか確認します。2013年度は22取引先の点検を実施しました。



「生かき」の点検風景(北吉水産にて)

#### 産直商品の点検

産直商品は、産地から提出された仕様書通りに生産されていること、農薬・動物用医薬品の使用記録がきちんとつけられていること、選果場や加工施設の衛生管理、圃場や農場の管理が適切に行われていることなどを確認しています。問題が発見されれば改善を要請します。2013年度は90産地(青果物、米、畜産物、鶏卵、牛乳)の点検を実施しました。

※検査や点検の様子はホームページで公開しています

#### 食品中の放射性物質問題に対する対応

放射性物質に関する問題については、行政による検査結果をまとめた独自のニュースなどを発行し、継続してホームページ上で情報提供しています。また、原発事故発生以降、専門家や職員による学習会を継続しています。

#### 商品事故の対応

商品事故対応マニュアルに基づいて迅速に対応しています。

##### (株)アクリフーズの商品から農薬が検出された問題への対応

2013年12月に、(株)アクリフーズ群馬工場で製造された冷凍食品の一部から農薬成分(マラチオン)が検出されるという商品事故が発生しました。京都生協では、商品事故対応マニュアルに沿って店舗でのポスター掲示や組合員への緊急の電話かけ、はがきによるお知らせ等を実施しました。

### 事業を通じた取り組み

#### 宅配事業

週1回、注文された商品を決められた場所へ配達するシステムです。京都府全域をカバーし、商品をお届けしています。

- 2013年度は個配手数料を値下げしました。引き続き6歳未満の子どもがいる世帯や満65歳以上のみの世帯の手数料引きを行っています。
- 個別の要望に応えるため、個人別・世代別のチラシ等を発行しました。
- 注文書に過去に利用された商品の色付けを行い注文する



狭い路地での配達

際の参考となるように工夫しました。

- 栄養バランスを考えた夕食をお届けする「夕食サポート」の利用は1196食に広がりました。

# 追求します。

## 店舗事業

日々の買い物を通じて暮らしを応援しています。



コープらくさいの総菜コーナー

- 「コープさかの」「コープらくさい」の2店舗を改装し、選ぶ・買う楽しみが広がりました。組合員の要望に応え少量化の品揃えを増やしました。
- 65歳以上の組合員の買い物割引を行う「いこいこシニアデー」登録数は、全店で2万2048人(前年比148%)となりました。
- 「暮らし応援情報」を提供するメールマガジンの配信が全店舗に広がり、会員登録数は1万382人(前年比321%)となりました。

## 共済事業

全国の生協組合員同士の助け合いによる保障制度です。京都生協の契約件数は21万件(前年比101%)で、2013年度は3万8000件(前年比100%)の共済金を給付しました。



共済訪問活動※P.14に関連記事を記載

- 台風18号による被害を受けた地域では、申請手続きの案内とお見舞いの訪問活動を行いました。
- コープらくさい(店舗)に新たに共済カウンターを開設し、保障について気軽に相談できる共済カウンター設置店は9店舗になりました。
- 生命医療保障「あいびらす」の保障が見直され、加入限度額の引き上げや新たな特約で充実しました。
- 京都生協LPA(ライフプラン・アドバイザー)の会による学習会等は、72会場(前年69会場)、1550人(前年1045人)と、参加が広がりました。

## 葬祭事業

葬祭事業は、「生協の事業なら葬儀も安心」という組合員の願いからスタートしました。



クオレ案内センター(COOP 仏壇店)

葬祭に関わる相談には年中無休で対応し、仏壇仏具などの展示販売も行っていきます。

- 2013年度は669件(前年比96%)の「クオレ葬」の利用がありました。
- 共済事業部と協力し「エンディングノートの書き方学習会」を7回(前年5回)開催しました。葬祭ホール見学会や相続・遺言学習会などとあわせ、組合員の学習機会が広がりました。

## 福祉事業

住み慣れた我が家で安心して暮らし続けられるよう、在宅生活を支援しています。



ヘルパー研修

また、2ヶ所の通所介護施設でデイサービスを行っています。

- 「介護事業」では、居宅支援事業、訪問介護事業、通所介護事業ごとに利用者の拡大をめざしました。毎月のべ約2100人(前年1500人)の利用者を対象に、約300人の職員(ヘルパー含む)が支援を行いました。地域その他サービス事業者との連携をはかりながら介護職員の専門的知識や技能のレベルアップに取り組んでいます。
- 「福祉・暮らし相談窓口」では、各事業やサービスと連携し、組合員からの問い合わせに対応しています。2013年度は約370件(前年約450件)の相談がありました。

昨年のレポートの感想から

- 夕食サポートは組合員さんにとって、とてもよいサービスですね。
- 誰もがぐらしやすくなるよう、事業を広げてほしい。
- 個別配達をもっと利用しやすくなるように改善を続けてください。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# 2

## 誰もが健康でいきいきと働き続けられる 職場づくりをすすめます。

2013年度は…

- 障がい者雇用をすすめるために特例子会社を設立しました。
- 職員の子ども参観日を実施しました。
- 高齢者(シニア)嘱託制度を導入しました。

### 特例子会社(株)ハートコープきょうとの設立

障がい者がやりがいをもって長く働き続けられる環境を整備し、障がい者雇用を広げるための基盤として「(株)ハートコープきょうと」を設立し、特例子会社として認定されました。現在、5人の社員で宅配事業の商品配達に使用している折りたたみ式コンテナの洗浄作業を行っています。

京都生協の障がい者雇用率は2014年3月時点で2.22%(前年1.48%)となりました。



洗浄作業の様子

#### (株)ハートコープきょうと社員の声

「働けることが嬉しい。苦手な作業もありますができるようにもっと頑張りたいです」

### 子ども参観日の実施

子どもが親の仕事を見学する「子ども参観日」を実施し、職員41人と子ども47人が参加しました。職員の働きがいの向上や親子の絆を深める機会となりました。



子ども参観日

#### 子ども参観日参加の職員の声

「家ではあまり話す時間のない子どもとたくさん話すことができました」  
「普段は知らない親の様子を見ることができました」

### 高齢者(シニア)嘱託制度の導入

「多様な働き方の選択肢をひろげること」を目的に、55歳以上の正規職員が勤務形態を選択できるよう制度化しました。2013年度は3人が申請しました。

### 育児・介護の支援制度

- 育児休職制度活用者は4人でした。  
(期間終了後全員職場へ復帰)

※休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が育児のために子どもが3歳に達するまで休職できる制度

- 育児時短制度活用者は8人でした。

※保育所の保育時間の関係で通常どおりの勤務が困難な場合に、安定して働けることを目的に勤務時間を短縮できる制度

- 介護休職制度活用者は1人でした。

(期間終了後職場へ復帰)

※休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が、一定期間介護するために休職できる制度



### 有給休暇の積み立て制度

正規・嘱託職員の福利厚生制度の充実を図ることを目的に、時効により失効した年次有給休暇を一定日数まで積み立て、定年退職時に取得できるように制度化しています。2013年度は全体で4513日分が積み立てられました。そのうち年間1日はボランティア活動に使用することも規定しています。

パート職員についても有給休暇の積み立て制度を設けており、2013年度は全体で7699時間分が積み立てられました。

### 労働安全衛生の推進

職場労働安全衛生委員会を中心に、各事業所・部局では毎月リスクの発見・分析・対策の視点共有をはかり、安全で働きやすい職場づくりを目指しています。また、職員数50名以上の事業所では、年1回以上の産業医による職場巡視を実施しています。6月・11月は労災ゼロ月間を実施し、「メンタルヘルスケアセミナー」の開催や健康づくり月間の取り組みで労働安全衛生を推進しています。

健康診断の受診率は91.3%(昨年90.2%)でした。

### ハラスメント防止の取り組み

ハラスメントのない職場づくりを目指し、マネジャー(所属長)を対象とする研修会を継続しています。また、全職員を対象に配布しているコンプライアンス冊子の中でも、パワハラ、セクハラ的具体例を取り上げ、啓発に努めています。

# 3 取引先と対等な立場で、公正な取引と協力・共同の 関係づくりをすすめます。

2013年度は…

- 地産地消の常設売り場が7店舗増え、10店舗となりました。
- さくらこめたまごの利用が広がりました。

## せいきょう虹の会

「せいきょう虹の会」は、京都生協の取引先メーカー・生産者が集う会で、京都生協創立20周年を機に設立されました。以来、「共同互助の精神に基づき、会員相互の研修と親睦を図るとともに、京都生協との連帯を通じて、平和とくらしを守る生協運動発展と会員の事業発展に資すること」を目的にかかげて活動している頼もしきパートナーです。2013年に設立から30年を迎えました。



2013年度 虹の会総会

## 虹のフェスティバルの開催

組合員と「せいきょう虹の会」に参加する取引先の生産者・メーカーとの交流を目的に、各地域で「虹のフェスティバル」を開催しています。2013年度は、24会場で開催され、延べ164の取引先に参加いただきました。



西京エリアでの虹のフェスティバル



京田辺エリアでの虹のフェスティバル

## 地産地消商品取り扱いの広がり

店舗の農産売り場では常設の地産地消コーナーが昨年から7店舗増加し、10店舗となりました。コーナーでは地元の旬の野菜を生産者ととも紹介しています。



地産地消コーナー

### トピックス



京野菜マルシェ売り場コンテストでコープさがのの地産地消コーナーが「京都府知事賞」を受賞しました。

## 生産者と協力した商品の取り組み

### ●さくらこめたまごの応援金

京都の休耕田、耕作放棄田を活用して飼料米をつくり、その飼料米を京都のにわとりが食べて産んだ「さくらこめたまご」は、1個あたり1円が飼料米生産者と養鶏業者をささえる応援金となっています。2013年度の応援金は447万2400円となりました。

### ●サンゴ再生もずく基金

基金対象商品の「もずく」を購入することで、1商品あたり1円が沖縄のサンゴ礁再生を支援するための基金となる取り組みを、(株)井ゲタ竹内、恩納村漁協とともに取り組んでいます。2013年度は17万3790円を恩納村漁協に送付しました。

※P.11にも関連記事を記載

昨年のレポートの  
感想から

- 地元生産者との取り組み等、商品を通じて組合員や地域への貢献を期待します。
- 宅配事業でも、もっと地場野菜を利用できるようになりますように。
- サンゴ再生もずく基金など生産者とともに意義ある商品を増やしてください。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# 4

## より環境負荷の少ない事業・活動をすすめます。

### 環境目標と実績

#### 環境方針に基づいて取り組みをすすめています

環境問題にとりくむ  
基本的な考え方

- 自然と社会の仕組みを相互の関連の中で総合的にとらえ、「生産－流通－消費－廃棄の連鎖」をトータルに視野に入れた科学的な活動を展開します。
- 「人間－環境系の調和」という視座を土台に据えます。
- 「安全・安心」の商品政策を一層発展させ、環境に配慮した商品づくりをすすめます。

京都生協環境方針(基本方針)  
2007年5月29日

京都生協は、食料品・日用品を中心とした商品の供給及び共済、福祉等のサービスを組合員に提供していることをふまえ、以下の環境に配慮した活動を行います。

事業活動、商品及びサービスから発生する環境影響の大きな項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的に見直すとともに、環境マネジメントシステムの継続的な改善をすすめ、環境負荷の軽減と汚染の予防に努めます。

1. 環境に配慮した商品の取り扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止対策として、CO<sub>2</sub>排出削減のためにエネルギー使用量削減と再生可能エネルギーの活用に取り組みます。

3. 廃棄物の発生抑制、再資源化をすすめます。
4. 資源や資材の有効活用をすすめるとともにグリーン購入に取り組みます。
5. 環境関連の法規、その他受け入れを決めた要求事項を順守します。
6. 組合員による環境保全活動に積極的に取り組むとともに、地域の環境保全を諸団体と協同してすすめます。以上の活動をすすめるために、研修や広報誌・紙等を通じて職員に対する教育・啓発を積極的に行います。この環境方針を組合員や社会に公開するとともに、環境保全活動の取り組み状況について定期的に公表します。

#### 環境方針に基づいて、環境目標を設定し取り組みました

◆評価基準:○=100%達成 △=80%以上の達成 ×=80%以下の達成 -=評価できず

環境目標	2013年度の取り組み	関連ページ	評価
CO <sub>2</sub> 排出量について、2店舗の閉店に伴う削減量を加味せず既存施設で、2012年度比1%の削減をめざします。	CO <sub>2</sub> 排出量は、1万2688tとなり、2012年度比96.2%、2005年度比86.5%の到達ですが、目標とした閉店店舗を除く既存施設では102.8%となり、前年から増加しています。	8	×
環境配慮商品の普及に取り組みます。	宅配お届け裏面で、4週連続環境配慮型商品の紹介を行うクイズを実施し、参加人数は、8061人でした。前年からは参加者が減少しました。	11	×
食品リサイクル率の向上を図ります。	リサイクル率は、46.3%で2010年度から3.1%後退しています。	11	×
重点品目の回収に取り組みます。 (紙パック・卵パック)	引き続き各店で回収に取り組んでいます。	10	○
お買い物袋持参率について94%以上を維持。	継続的に94%以上を維持しています。	10	○

#### 事業活動にともなう環境への影響

##### 消費(投入)されたもの

- おもなエネルギー・資源
- 電気 …………… 22,697,671kwh
  - ガス …………… 273,802m<sup>3</sup>
  - 水道 …………… 102,864m<sup>3</sup>
  - 軽油 …………… 790,842<sup>キロリットル</sup>
  - ガソリン …………… 138,048<sup>キロリットル</sup>
  - LPG …………… 67,659<sup>キロリットル</sup>
  - コピー・印刷用紙・帳票 …………… 99t
  - プラスティックトレイ …………… 82t
  - レジポリ袋 …………… 75万枚
  - 内掛け袋 …………… 115t
  - 共同購入、個配カタログ …… 5,610t

##### 2013年度実績

##### 事業活動

- 対象範囲  
京都生協全事業所  
一部子会社を含む※
- 対象事業  
● 商品供給事業  
● 福祉、葬祭事業の  
管理部門
- 供給高 686億円
- 組合員数 50.7万人

##### 排出されたもの

- CO<sub>2</sub>の排出  
〈廃棄物〉
- 生ゴミ …………… 286t
  - 紙・段ボール …… 97t
  - プラスティック 118t
  - 混合ゴミ …………… 32t
- 12,688t-CO<sub>2</sub>  
〈リサイクル〉
- 生ゴミ …………… 262t
  - 紙・段ボール …… 999t
  - プラスティック …… 11t
  - 牛乳パック …………… 127t
  - 食品トレイ …………… 45t
  - PETボトル …………… 86t
  - 発泡スチロール箱 …… 80t
  - 卵パック …………… 32t
  - 内掛け袋 …………… 32t
  - 共同購入、個配カタログ 3,990t

※CO<sub>2</sub>排出については、委託している物流センター、物流車両からの排出を除いています。但し、個人宅配の委託車両燃料は含んでいます。地球温暖化防止自主行動計画の日本生協連ガイドラインによります。

## 地球温暖化防止自主行動計画の推進

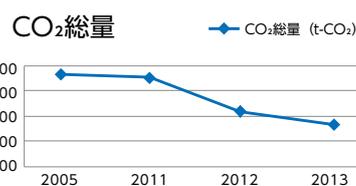
京都生協は、地球温暖化防止自主行動計画を作成し、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。

2013年度からの地球温暖化防止自主行動計画では、2020年までに、2005年度対比で、15%のCO<sub>2</sub>実排出量削減を計画し、取り組みを行ってまいります。なお、計画では電気のCO<sub>2</sub>排出係数を、2005年当時の0.423で固定をして進捗を管理するため、昨年までの数値とは異なっています。

1万2688t  
東京ドーム5.2杯分

京都生協のCO<sub>2</sub>排出総量

	2005		2011		2012		2013			
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標比	目標差	2012年比	2012年差
CO <sub>2</sub> 総量 (t-CO <sub>2</sub> )	14,668	14,526	13,186	12,185	12,688	104.1%	503	96.2%	-498	
基準年比	100.0%	99.0%	89.9%	83.1%	86.5%					
原単位(供給1億円)	2.34	2.06	1.95		1.85			94.7%	-0.10	



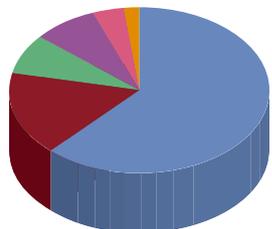
京都生協が事業活動を行うなかで1年間で排出したCO<sub>2</sub>の総量は、1万2688tとなりました。これは東京ドーム5.2杯分にあたります。

2012年度比96.2%、2005年度比86.5%の到達です。供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量は、1.85となっており、原単位でも改善がすすんでいます。閉店したコープかどの四条、コープはづかしの2店舗を除く既存施設をベースとして、前年から1%の削減をめざしましたが、その基準では350t増加し、前年比102.8%となりました。

※排出量には、日本生協連の地球温暖化防止自主行動計画の基準に沿って、京都生協100%出資子会社及び個配委託先の燃料使用量が含まれます。

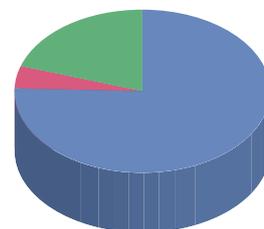
業態別排出量 (t-CO<sub>2</sub>)

店舗	7,860
支部	2,104
子会社	964
個配委託	1,039
本部	489
後方	232



業態別排出量 (t-CO<sub>2</sub>)

電気	9,601
ガス	577
燃料	2,509



### トピックス

京都生協は、ISO14001 (環境マネジメントシステム) 規格に基づく外部認証を、2014年3月21日をもって返上しました。2014年10月をめどに、新たに「KESステップ2SR」の取得をめざします。

京都生協では、2002年にISO14001を取得し10年間にわたって環境の取り組みを行ってきましたが、今後はこれまでの環境負荷を減らす取り組み(紙・ゴミ・電気)に加え、持続可能な社会の発展をめざして責任を果たすことが求められています。

KESステップ2SRは、ISO14001に準拠した規格となっており、これまでの環境の取り組みに加えてSR (社会的責任) についても目標を持って取り組みを行うことで、事業活動、商品及びサービスに係る「持続可能な発展への貢献を最大化」することを常に意識し、継続的改善を図ります。

#### KESとは

Kyoto=京都

Environmental Management System=  
環境マネジメントシステム

Standard=スタンダード

京都議定書の発祥地、京都から発信された  
「環境マネジメントシステム」の規格です

「地球環境問題は人類最大の課題」と、経営のあり方が問われる21世紀の幕開けに、KESは、中小企業をはじめ、あらゆる事業者を対象に「環境改善活動に参画していただく」ことを目的に策定されました。「シンプル」で「低コスト」なKESは、取り組みやすい環境マネジメントシステムとして、現在は4,000を超える事業者が登録しています。また、各地域とも連携し、全国規模で活動しており、『KES』の名称も冒頭に示した頭文字を取った略号から、現在では固有名詞『KES』として使用されています。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

## [ 電 気 ]

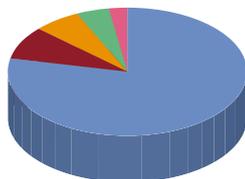
4365世帯分

京都市2012年  
平均値5200kWhにもとづく

電気使用量は、2270万kWh(前年比94.9%)でした。2013年度は、コープかどの四条、コープはづかしの閉店により190万kWhが減少し、コープ男山リニューアル・コープ下鴨建て替えによる前年閉店期間がありましたので、65万kWhが増加しています。その他の店舗・支部についても、昨夏の猛暑の影響がありましたが、昨年より若干減少(前年比99.9%)しています。

### 電気使用量

店舗	78.4%
子会社	8.5%
支部	6.2%
本部	4.6%
後方	2.3%



	2012使用量	2013使用量	前年比
支部	1,322,944	1,409,908	106.6%
店舗	19,037,295	17,796,505	93.5%
本部	1,093,836	1,048,947	95.9%
後方	493,349	515,549	104.5%
子会社	1,977,804	1,926,762	97.4%
合計	23,925,228	22,697,671	94.9%

## [ ガ ス ]

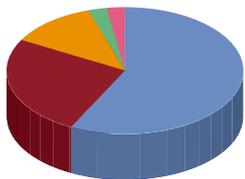
812世帯分

京都市2012年  
平均値337m<sup>3</sup>にもとづく

ガスの使用量は27.4万m<sup>3</sup>(前年比で86.7%)でした。ガスは店舗の空調設備での使用が全体の約55%を占めています。かどの四条、コープはづかしの閉店もあり使用量は減少しました。

### ガス使用量

店舗	57.6%
子会社	25.7%
支部	11.7%
本部	2.5%
後方	2.5%



	2012使用量	2013使用量	前年比
支部	29,382	32,073	109.2%
店舗	195,979	157,657	80.4%
本部	6,935	6,831	98.5%
後方	5,937	6,799	114.5%
子会社	77,453	70,442	90.9%
合計	315,686	273,802	86.7%

## [ 車 両 燃 料 ]

原油1076kl

使用した車両燃料を原油に換算した量です(個配委託先の車両燃料含む)。京都生協での車両燃料は、99%が共同購入・個配の業務によるものです。支部では配送コースの見直しによる燃料使用量の削減の取り組みをすすめ、2012年度からエコドライブの講習会を各支部で実施しています。LPG車両については、リース切れに伴い順次軽油車両に移行しています。個別宅配の配達ポイント数の増加に伴い委託先での燃料使用量が増加しています。

### 車両燃料の推移 (kl)

		2012年	2013年	前年比
京都生協	ガソリン	89,948	103,760	115.4%
	軽油	452,782	462,256	102.1%
	LPG	12,907	9,755	75.6%
個配委託	ガソリン	35,069	34,288	97.8%
	軽油	295,335	328,586	111.3%
	LPG	74,228	57,904	78.0%

## [BDF 使用車両]

44台

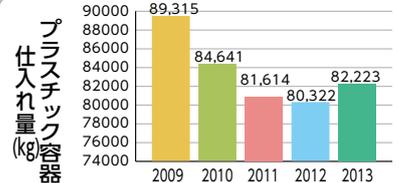
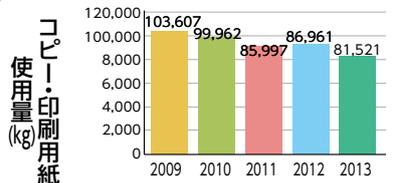
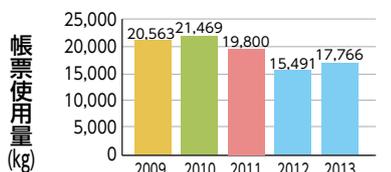
京都生協では軽油代替燃料として廃食油を原料としたBDF(バイオディーゼル燃料)を2005年から使用しています(2013年度使用量9万7681L)。使用済みてんぷら油が原料であるため、カーボンニュートラルの考え方からCO<sub>2</sub>排出に換算していません。そのため238tのCO<sub>2</sub>削減効果となっています。但し、新規車両については不具合が発生しているため、旧車両のリース切れに伴い導入車両は減少しています。

京都生協の店舗の惣菜部門からの廃食油も回収してBDFに加工されています。



配達車両に貼っているステッカー

## その他業務で使用する資源の推移



※昨年までの集計値に誤りがあり、修正しています。

※プラスチック容器はインスタ加工で使用している食品トレイや総菜で使用している透明のふたつきパックです。

## 地球環境のために

3R (Reduce: 発生抑制・Reuse: 再利用・Recycle: 再生利用) の取り組みにより、廃棄物を減らし、資源循環することができます。

2013年度、組合員の取り組みで削減できたCO<sub>2</sub>は1313t-CO<sub>2</sub>と想定されます。

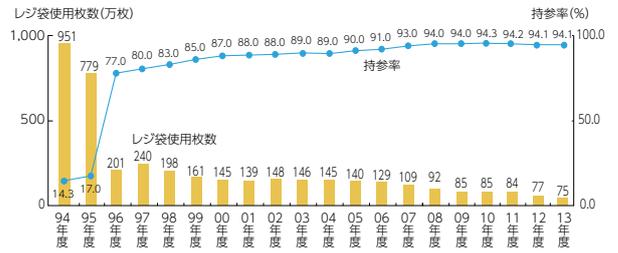
### マイバック持参/レジ袋発生抑制の取り組み

身近なごみ減量の取り組みとして、1983年より下鴨組合員センター(現コープ下鴨)で組合員へマイバックの持参を呼びかけました。1996年からは全店舗でレジ袋1枚5円の有料化を行っています。マイバックの持参率は、2013年も引き続き94%台を維持しています。

### 容器包装リサイクルの取り組み

使用済みの容器包装を再資源化するために、共同購入・個配では配達時に、店舗ではリサイクルコーナーを設置して回収しています。

### お買い物持参率・レジ袋使用数の推移



●2013年度レジ袋想定削減数：1201万枚

●削減数の原油換算(1枚当たり10mlとして)120キロリットル  
ドラム缶(200ℓ)で



×約601本に相当

●地球温暖化防止に貢献

➡(1枚当たりのCO<sub>2</sub>排出量42gとして) 505 t の削減

※レジ袋代金として集まった環境資金は374万5654円です。

全額を環境リサイクル費用に充当し、不足分を経費で補填しています。

### トピックス



コープパリティで京都市ごみ減量推進会議が実施した「レンタルエコバッグ」キャンペーン(2014年3月14日～24日)に、協力しました。

	リサイクル資源	回収方法	再生利用	回収量、回収率 = $\frac{\text{回収量}}{\text{供給重量}}$
紙パック	共同購入 個配 店舗で回収	担当者へ 店舗回収BOX	トイレ ロール、 ティッシュ ペーパーなど	回収量127トン 回収率47%(前年48%) 削減CO <sub>2</sub> =113トン
食品トレー	店舗のみ 回収	店舗 回収BOX	食品 トレー、 文具など	回収量45トン 回収率115%(前年142%) 削減CO <sub>2</sub> =221トン
PETボトル	店舗で回収 16店舗	店舗 回収BOX	PET素材の 制服、 水切り袋	回収量86トン 回収率219%(前年235%) 削減CO <sub>2</sub> =278トン
カタログ類	共同購入・ 個配で回収	担当者へ	カタログ類	回収量3,991トン 回収率71%(前年64%)
卵パック	共同購入 個配 店舗で回収	店舗 回収専用 ラック	卵パック	回収量32トン 回収率57%(前年64%) 削減CO <sub>2</sub> =118トン
内掛け袋	共同購入 個配で回収	担当者へ	植木鉢 など	回収量38トン 回収率28%(前年34%)

※削減CO<sub>2</sub>量は、「環境省作成の3R行動による環境負荷削減効果見える化ツールVer1.2」を使用して算出しています。

紙パックの回収量には、アルミ付き紙パックの回収量も含まれています。

上記以外に、全店舗でボタン電池の回収、コープ西陣のみアルミ缶の回収を行なっています。

### PETボトルキャップの回収

2010年5月より全店でPETボトルキャップの回収を開始しました。回収したキャップの売却費用は、再生事業者を通じて、NPO法人エコキャップ推進協会に寄付され、「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に供与されます。

2013年度はワクチン4140人分に相当する356万個を供与しました。

### トピックス

#### 天ぷら油 回収実験への協力

コープパリティ、コープきぬがさで、京都市が実施した天ぷら油の回収実験(2013年10月12日～12月20日)に協力しました。



1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より少ない環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

## 廃棄物の削減・再資源化

### ●店舗での発生抑制の取り組み

廃棄物の排出は環境負荷につながるため、商品供給を適切に管理し廃棄物を減らすことが大切です。店舗では、環境負荷の低減とコスト改善に役立てるため日常的に廃棄量の削減に取り組んでいます。2013年度は、リニューアルを実施した店舗では増加しましたが、全体では0.49%となり、前年よりも大きく改善させることができました。

### ●事業活動での再資源化の取り組み

#### 食品廃棄物(生ごみ)

店舗から回収された食品廃棄物は、再生利用事業者のプラントでの飼料化や、バイオガス発電としてリサイクルされています。2013年度は、17店舗で221tをリサイクルしました。

店舗の惣菜の加工などで出された廃食油は、2013年度は34kLでした。全量回収して専用業者に引き渡し、京都生協の配送車両のバイオディーゼル燃料(BDF)に加工されています。

トータルでのリサイクル率は、46.3%となっています。

#### 発泡スチロール箱

事業で出た使用済みの発泡スチロール箱は、CNS環境センターで減容処理を行ったあと、処理業者のもとで建材(壁)にリサイクルされています。

2013年度は80tを減容処理しました。

### 環境に配慮した商品普及の取り組み

#### さくらこめたまご ～地産地消・循環型農業への貢献～

京都府下6市64haの休耕田などで育てられた飼料米(2013年度収量245トン)を、飼料に10%程度使用した「さくらこめたまご」を年間を通じて供給しています。2013年度供給量(2013年4月～2014年3月)は、44万7240パック(10個パック換算)でした。



#### もずく ～サンゴ礁の再生をめざして～

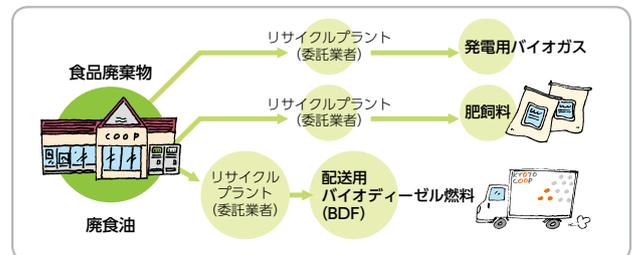
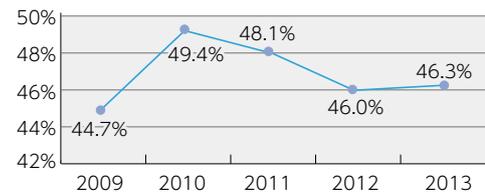
2013年1月に、もずく加工メーカーの(株)井ゲタ竹内、もずくを養殖する恩納村漁協と、もずくを育むサンゴを再生するための「サンゴ再生もずく基金」の覚書を締結しました。

(株)井ゲタ竹内取り扱いのもずく1点あたり1円をサンゴ再生のための基金として恩納村漁協へ寄付します。2013年度は、合計17万3790円を寄付しました。サンゴの養殖には1本あたり2800円が必要であり、サンゴ約62本分を支援したことになります。

#### 店舗廃棄率の推移



#### 食品リサイクル率



#### 照明用蛍光管

「一般社団法人蛍光管リサイクル協会」に入会し、管理・回収を行っています。

2013年度は、4480本(1350kg)を事業所から回収し、適正に水銀をリサイクル処理しています。

#### 環境配慮型商品

エコマーク、有機JAS、MSC、FSCなどの社会的に認知された外部基準をクリアし、認証を取得した商品の普及や、水環境にやさしい無洗米の普及にも取り組んでいます。※次年度は環境配慮商品の見直しを行う予定になっています。



#### 無洗米の供給状況

	2011実績	2012実績	2013実績	米全体	無洗米構成比
供給高(億円)	19.3	19.6	18.1	23.4	77%

#### その他の認証取得商品の供給状況

	2011実績	2012実績	2013実績	前年比	日用品全体	構成比実績
供給高(億円)	4.5	3.7	2.9	79.1%	72.5	4%
供給点数(千点)	1,187.9	928.7	800.9	86.2%	12,591.4	6%

## その他省エネルギーの取り組み

### 市民エネルギー京都が実施する市民協働発電への協力

原発に頼らないエネルギー政策への転換を目指して、一般社団法人市民エネルギー京都が行う市民協働発電に協力し、コープ下鴨・コープ城陽の屋根に、太陽光発電を設置しました。

両施設での年間発電予想量は8万4000kWhとなり、一般家庭20軒分に相当します。



コープ下鴨に設置した太陽光パネル

#### 洛北支部 太陽光パネル発電量

2013年3月から稼働している洛北支部の太陽光発電の1年間の累積発電量3万3759 kWh(一般家庭6.5軒分相当)  
 ※京都市内1世帯当たり年間使用量5200kWh  
 CO<sub>2</sub>に換算すると16 t-CO<sub>2</sub>の削減に相当  
 ※関西電力2012年度CO<sub>2</sub>実排出係0.000514 (t-CO<sub>2</sub>/kWh)

### 店舗で照明を順次LEDに変更

コープ桃山、コープ醍醐石田、コープ祝園駅の天井照明をHF灯より高効率のLEDに更新しました。これにより照明の電気使用量も半分程度になっています。またLEDは点灯寿命も長いので、照明管廃棄物の削減にもつながっています。これに伴い年間で197万円の電気料金と50.4tのCO<sub>2</sub>を削減できます。

またリニューアル店舗でも順次LED照明への切り替えをすすめています。



### 家庭の省エネ相談所を実施

コープ醍醐石田で「家庭の省エネ相談所」を実施し、17名の組合員が相談を受けました。

その場で記入したアンケートをもとに省エネアドバイザーがエコライフ診断書を作成し、省エネのコツなどをアドバイスしました。



### チャレンジエコライフの取り組み

省エネの取り組みを広げることを目的に、7月または8月の電気・ガス・水道の各使用量と前年同月の使用量の報告を募集しました。

256名の方から応募があり、削減できた方は177人。合計2973kg(25mプール約3杯分※)のCO<sub>2</sub>を削減したことになります。

※1tのCO<sub>2</sub>(気体)の体積は、546m<sup>3</sup>(1気圧、20℃)。25mプール(横25m×縦15m×深さ1.5m)1杯分に相当。

世帯当たりの平均排出量	145.2kg
一人当たり平均排出量	45.3kg
もっとも削減した方	142.4kg(6人家族)
一人当たり排出量が最も少ない方	15.1kg(4人家族)

#### <省エネチャレンジに参加された方の感想>

省エネチャレンジの使用量チェックに記入することで、あらためてエコライフを意識するようになりました。自分自身への戒めとして、何かに記入する、あえて見るようにすることの大切さに気付かされました。ありがとうございました。

### わが家の省エネ・節電の工夫を募集

6月～9月の夏期間と、12月～2月の冬期間に「わが家の省エネ・節電の工夫」を募集し、寄せられた工夫をホームページで紹介しました。

<夏の工夫>冷房は、みんなが集まった部屋一つだけつけること!もちろん、夜寝る時も、家族5人が集まって一つの部屋で寝ています。それと、冷房をつける時は、必ず扇風機も一緒に回して、風を肌で感じて体感温度を下げる。冷房の設定温度が高くても涼しく感じます。

<冬の工夫>わが家では、省エネダクトを使用しています。ホームセンター等で販売している筒状のプラスチック製品(長さ1m位、直径10cm位のじゃ腹状態)ですが、ファンヒーターの前に置いておくだけで、部屋は暖かくコタツの中へ筒先を入れるので足元もぽかぽかで、筒状の所へは洗濯物も早く乾きます。友人から教えてもらったのですが、これは良かったです。

#### 昨年のレポートの感想から

- 新しくできた洛北支部の太陽光パネルのように、今後リニューアルする店舗へ順次設置できればいいと思います。
- 店舗の廃棄率が悪化していたことが残念です。
- 環境保全に関する対応は終わりが無い取り組みなので、今後もさらに進化を期待します。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より少ない環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# 5

## 地域社会の一員としての役割を積極的に担います。

2013年度は…

- 職場見学・職場体験・職業訓練を継続して受け入れました。
- 配達時の見守り活動の締結が9市町に広がり、京都府内で13箇所になりました。

### 事業と活動を通じた取り組み

#### 安全運転の推進

宅配事業を行なう責任として、重大事故を発生させることがないように安全運転教育に力を入れ、地域の模範となる安全運転を心がけています。「安全運転管理委員会」を毎月開催し安全運転を推進するとともに、事故の発生状況については軽微なものを含め毎月のリスク管理委員会で発生状況をモニタリングし、要因の分析と対策をすすめています。



伏見区で開催した安全運転大会

#### 全配送車両で車止めを実施

駐車するときは必ず左前輪に車止めを設置しています。トラックが動き出すことを防ぐだけでなく、車止めをはずす際、下をのぞき込むことで安全確認を行っています。



#### トピックス



第3回全国生協安全運転大会表彰式

生協ドライバーの安全知識、技術、意識向上、均質化、エコドライブの浸透を図ることを目的として、第3回全国生協安全運転大会が静岡県浜松市で開催され、2年連続で京都生協代表の職員が優勝しました。

優勝した洛北支部の岩崎さんのコメント  
『地域の中で「さずが生協」と言ってもらえるような運転をこれからも心がけます。』

#### 職場見学・職場体験・職業訓練などの受け入れ

店舗を中心に、職場体験を通じて地域子どもたちが職業について学習する「職場見学」「職場体験」「職業訓練」を支援しています。2013年度は、72校、825人を受け入れました。

#### 職業体験への協力実績

受け入れた職場体験・訪問	参加校数、人数
小学生の職場訪問	15校、681人
中学生の職業体験	37校、115人
養護学校生徒の職場訓練	14校、22人
大学生インターンシップ	6校、7人



小学生の店舗見学の様子



大学生のインターンシップの様子

#### 京都聖母女子短期大学の食育研修に協力

京都聖母女学院短期大学・食育ボランティアの学生による食育研修の場として、子ども調理教室と親子料理教室に協力しました。組合員サークルなどを通じて、27人の組合員親子が参加しました。また第16回商品大交流会で、食育を紹介する場として学生にブースを提供しました。



子ども料理教室

## 行政・地域・諸団体との取り組み

### 配達時の見守り活動の推進

京都府や各市町、社会福祉協議会といっしょに取り組む配達時の見守り協定は、2012年度までの京都府北部4市町に加え、南部でも締結がすすみました。与謝野町、宇治市、久御山町、京都市、京田辺市、城陽市、舞鶴市、亀岡市、大山崎町で協定を締結しました。京都市では、宅配の週1回の配達のほか、週5日の夕食サポート配達時にも見守り活動を行っています。2013年度は、配達中に異変を感じた職員による4件の通報がありました。



京都市社会福祉協議会との見守り協定締結式

### きょうせんととの連携

1990年に協定書を締結し、提携活動をすすめてきました。宅配の商品カタログに定期的に作業所で作られた商品を掲載しています。2013年度は交流会やボランティア活動、署名・募金などの取り組みに、のべ678人の組合員が参加しました。



店頭での署名活動

### ユニセフとの連携

24回目となるユニセフお年玉募金に取り組みました。2013年度は、「シリア緊急募金」や、3年目となる「CO-OP コアノンスマイルスクールプロジェクト」にも取り組んでいます。



2013年度のユニセフお年玉募金贈呈式

### ハンガー・フリー・ワールドへの協力

国際協力NGOハンガー・フリー・ワールド(※)の「書き損じハガキ回収キャンペーン」に協力しました。  
※飢餓のない世界を作るために活動する民間の国際協力団体です。書き損じハガキや切手などを集めて換金し、その資金を元にパンラディッシュ、ウガンダなど4カ国で活動しています。

### 災害時に支援物資の調達で京都府に協力

京都府生協連が京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書」(1997年)に基づき、発災時は京都府の要請を受けて支援物資の調達・輸送に協力します。あわせて、毎年協定書に基づいた総合防災訓練に参加しています。



2013年宮津市で行われた防災訓練

### 台風18号災害支援の取り組み

9月16日に近畿地方を直撃した台風18号により、京都府各地は大きな被害を受けました。福知山市では市内を流れる由良川が氾濫し、流域地域の住宅地や農地に多大な被害をもたらしました。

京都生協は京都府災害ボランティアセンターに協力して被災者支援活動を行うとともに災害緊急募金、コープ共済の契約者訪問活動に取り組みました。

### トピックス

#### 浸水地域で炊き出し

浸水により、ガスや水道の使えなくなった福知山市で、生協組合員・職員のボランティアが炊き出しを行いました。被災された方からは「久しぶりに温かいものを食べることができた」と喜ばれました。



炊き出しの様子

#### 京都府から感謝状

「京都府台風18号災害義援金」を組合員に呼びかけ、70万9000円を社会福祉法人京都府共同募金会に送付しました。この義援金送付に対し、京都府知事より感謝状が贈られました。



知事より贈られた感謝状

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 よりよい環境・社会・活動の推進

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

## 東日本大震災復興支援の取り組み

### 被災地訪問交流ツアーを実施

被災地に思いを寄せ、震災の記憶を風化させないために、組合員・職員15人の参加で被災地訪問交流ツアーを実施しました。参加者はみやぎ生協東日本大震災学習・資料室や南三陸町・石巻市等を訪問しました。また登米市南方町の仮設住宅では、入居者の皆さんと交流し、発災当時のお話をうかがいました。



仮設住宅集会所での交流



津波が押し寄せた南三陸町立戸倉中学校を訪問

#### 被災地訪問交流ツアーの参加感想から

「いつ終わるかわからない仮設での生活、お金のことに仕事のこと…。メディアで報道されていない現実を次々と目の当たりにした2日間でした。こんな厳しい状況の中でも、「自分たちで協力しあい何とか生きていきたい」と奮闘されている皆さんの様子に胸が詰まる思いです。また、みやぎ生協のスタッフが震災後いち早く支援に動いたことを知り、協同組合の助け合いの精神に改めて感動しました。これからも被災地を応援し続けたいと思います」

### 被災地生協が行うサロン活動に京都のお菓子を送付

被災地生協では、被災されたみなさんの交流やふれあいの場として「サロン活動」を継続して行っています。京都生協は定期的に京都のお菓子をお届けし、サロン活動を応援しました。



いわて生協より御礼に送られた人形

### 宮城県で漁連復興支援と炊き出し

生協役員や京都市内の学生とともに、宮城県南三陸町志津川漁港と登米市南方仮設住宅を訪問。現地ではみやぎ生協のボランティアといっしょに炊き出しや土のうづくりの支援活動を行いました。



志津川漁港での土のうづくり

### 第2回海の虹プロジェクト

夏休みに南三陸町の中学生と高校生を京都に招き、他団体や多くの支援者と協力して「第2回海の虹プロジェクト」を実施しました。南三陸町の3つの中学校と昨年参加した高校生をあわせ、57人が京都府各地を訪問しました。



綾部市古屋で記念撮影

### 第3回震災支援の餅つき大会

鳥取県畜産農協・みやぎ生協のボランティアと協力し、宮城県南三陸町志津川漁港と登米市南方町の仮設住宅で、餅つきと炊き出しを行いました。

「海の虹プロジェクト」に参加した中学生も、炊き出しや餅つきに参加しました。



京都でついたお餅を仮設入居者にお渡し

#### 昨年のレポートの感想から

- 東日本大震災が風化しつつあると思います。でも生協は被災地支援をこれからも続けてほしい。
- 災害支援の活動はかなり評価できると思います。

# 6 組合員参加・コミュニケーションを促進し、情報開示と説明責任を果たします。

2013年度は…

- 「組合員参加のあり方と組織の見直し」により、新たな参加が広がりました。
- 組合員コールセンターでの電話対応実績が増加しました。

## 組合員の参加のあり方と組織の見直し

社会の変化や、一人ひとりの興味・関心の多様化にあわせ、組合員の参加の形や組織について見直しを行いました。2013年度は新しい活動のスタートの年となりました。



コープカレッジでの料理教室



京丹後エリアでのコープクラブの活動

## 組合員コールセンター

2012年度に「組合員コールセンター」が設置されて以降、組合員への回答がより早く伝えられるようになりました。コールセンターから配達担当者に直接メールでできるようになったことで、配達途中での対応処理なども効率的にできるようになっています。

電話対応実績

	苦情	意見・要望	問い合わせ	合計
2012年度	4万5601件	16万5279件	13万979件	34万1859件
2013年度	4万7562件	17万4943件	14万3426件	36万5931件
前年比	104.3%	105.8%	109.5%	107.0%

## YYカードの運用

組合員から寄せられた苦情、意見・要望、リクエスト等は「YYカード(よくする&よかったよカード)」(※)として、「組合員の声対応事務局」が迅速・丁寧・正確に回答をすすめるとともに、組合員・職員・取引先とのコミュニケーション促進に役立てています。

苦情は調査・分析を行い、原因究明と再発防止対策を明確にしています。「意見・要望」は、関係部局で事業に生かすための検討会議を実施し、2013年度は「カタログの表示改善」などの要望が実現しました。「リクエスト」についても商品案内や店舗の品揃えの改善に生かしています。

※支店や店舗で組合員の商品に関する苦情・意見・リクエストなどを記入する用紙

寄せられたYYカードの数

	苦情	意見・要望	リクエストなど	合計
2012年度	2963件	1225件	430件	4618件
2013年度	2996件	1203件	355件	4554件

組合員の声からの実現事例

組合員の声	実現事例
解凍方法の文字が小さくて見えない。文字を大きくしてほしい。	⇒ 印字範囲を調整し、文字を大きくしました。
子育てサポート割引を受けるために準備するものがわからない。	⇒ 利用ガイドに準備する証明書類についての文言を見直しました。
高齢者割引制度の対象年齢になったが、利用者にはその案内がない。	⇒ 毎年「敬老の日」を含む週に利用者へ案内を行うよう、改善しました。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

昨年のレポートの感想から

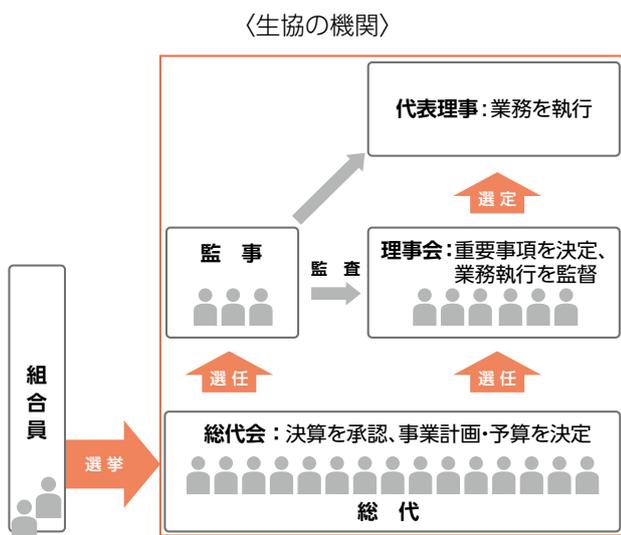
- 組合員コールセンターの開設で、迅速で正確に対応していただけるようになりました

## 適正な運営をすすめるために

生協が社会的責任を果たすためには機関運営が適正に行われなければなりません。「機関」とは、法人の意思を決定したり、決定された意思を執行に移したり、意思決定や執行の状況を監視するために、法人の内部におかれる機構のことをさします。

生協で機関にあたるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて財産管理を含む業務執行全般についての重要事項を決定する「理事会」（生協を代表して業務を執行する「代表理事」を含む）、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」です。

各機関がそれぞれの役割を果たすことで、適正な運営がすすめられます。



## 理事会

毎月の理事会では業務の遂行状況を確認し、必要な意思決定を行っています。理事の体制は組合員理事16人、有識理事5人、生協の代表者として業務を執行する代表理事2人を含む常勤理事4人の25人です。2013年度は理事会を15回開催しました。

## 監事

監事体制は常勤監事1人、有識監事3人、組合員監事2人の6人体制で理事の業務執行を監査しています。

監査は、監事監査の他、公認会計士による会計監査、職員組織のマネジメントを中心に専務理事の指示により実施する内部監査を実施しています。

## 総代会

最高議決機関である「総代会」では、総代が組合員の代表として、提案される決算や方針・予算などの議案について意思決定します。総代には必要な情報が提供され、理解を深めるための話し合いの場が必要となりますので、地区別の総代会議や懇談会、テーマ別総代懇談会等を開催しています。また、新しく総代になられた方には、オリエンテーションを開催しています。

2013年6月13日に開催された通常総代会には総数509人中500人の総代出席（委任・書面議決含む）により、第1号から6号までの全議案を賛成多数で可決しました。その内容は、機関紙「コーポロ」・ホームページを通じて総代以外の組合員にもお知らせしています。



総代会での採決の様子



総代懇談会



総代オリエンテーション

## 総代・組合員への情報提供

経営状況や理事会方針等の情報を提供するために、毎月「総代つうしん」を発行しています。またホームページの総代専用サイトでも、同様の情報を提供し、総代からの質問・意見を受け付けています。

機関紙「コーポロ」では、総代会や理事会・監事会の報告等を行っています。



機関誌コーポロ

総代つうしん

# 7

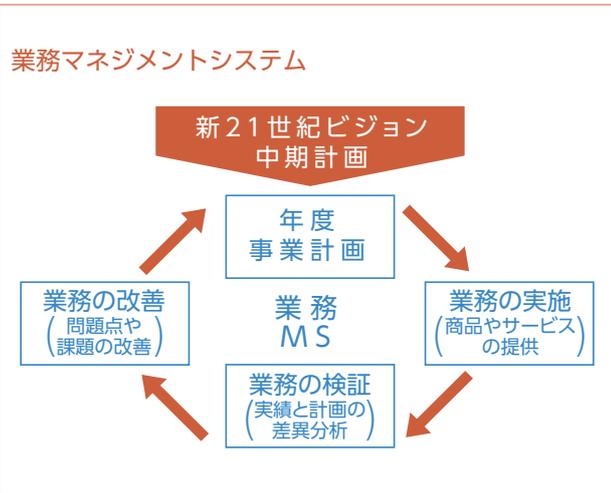
## 健全で強い事業経営を築き、組合員から負託された経営責任を果たします。

2013年度は…

- コンプライアンスに関するQ&A集を作成し全職員に配布しました。
- 大規模災害に備えた事業継続計画マニュアルの整備がすすみました。
- 経常剰余予算を達成することができました。

### マネジメントシステムの運用

マネジメントシステムとは「めざすべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるためのシステム(仕組み)」です。京都生協では、ISO9001(品質保証による顧客満足向上を目的とするマネジメントシステムの国際規格)を参考に、総合的な「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善をすすめ、商品・サービスの向上、事業計画の達成をめざし、2013年度は経常剰余予算を達成することができました。



### 内部統制課題の整備

社会的な役割を發揮する前提として、公正で健全な組織運営が不可欠です。そのために法令や定款などのルールを守り、確固たる倫理感を持って事業活動を行うこと、経営上重要な情報管理を確実にすること、組合の透明性を高めるための情報を公開すること、起こりうる損失の危険に備えるため定期的なリスク評価とリスク管理を行うことなどがが必要です。

京都生協では、2010年に「内部統制基本方針」を定め、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行なっています。

2013年度は重点リスクへの対応として、2012年度策定した「事業継続計画全体マニュアル」に続き、各事業系統のマニュアルを策定しました。これらのマニュアルに基づき全職員の安否確認訓練、対策本部メンバーを中心とした「地震シミュレーション訓練」も実施しました。

### コンプライアンス体制の推進

2005年に「コンプライアンス基本方針」と「自主行動基準」を定め、協同組合の価値をはじめとする倫理、法令や社会規範、および職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動をすすめるための職員教育に取り組んできました。毎年、全職員を対象に実施するCSR教育の中で、コンプライアンス課題を設定し、定着を図っています。また、具体的な事例を解説したコンプライアンスに関するQ&A集を作成して、全職員を対象に配布し、啓発に努めています。

#### ●個人情報保護

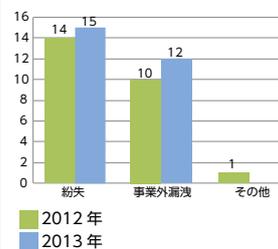
業務上のルールを明確にし、個人情報の適正な取得・利用・管理に努めています。業務で使用するパソコンからのデータ持ち出しを防止するセキュリティ対策を行い、個人情報を預託する取引先とは、個人情報取り扱いに関する覚書きを交わすなど、適正利用と安全管理を義務付けています。発生した個人情報事故(紛失など)については報告書の提出を義務付け、原因分析と再発防止の対策を確認しています。

#### 〈2013年度の個人情報事故の発生状況〉

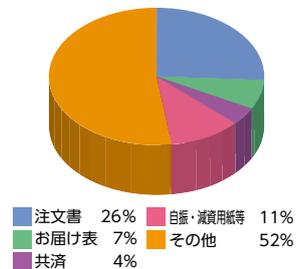
発生内容の多くは1～2枚の注文書や業務上の帳票類の紛失やお届け間違いですが、2012年度より若干増加しています。

これ以外にご提出いただいた注文書等が誤って、配送で使用する箱にまぎれて物流センターに送付されるなどの業務上の不適合が年間90件発生しています。

個人情報の紛失・漏洩等の発生状況



2013年度対象別内訳



#### ●ヘルプライン窓口の設置

法律や生協内のルールに違反した行為についての通報や相談を受け付けるコンプライアンス相談窓口(ヘルプライン)を内部・外部(法律事務所)に設置し、職員・取引先への周知を行っています。通報者は規程により不利益な処遇を受けません。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 よりよい環境・活動の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割發揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# グループ会社の環境保全の取り組み

## 京都協同食品プロダクト(株)

### ◆省エネルギー・省資源の取り組み

#### 1) 省エネルギー

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
電気使用量	99%	99.2%	×	節電の励行、不要な電気は消す。社内全体で共有しソフト的な改善を進め使用量の減少はしましたが目標には一步届きませんでした。従業員の節電意識は向上してきています。
ガス使用量	99%	89.4%	○	突発的なボイラー故障の発生もなく、ガス節約に対する意識向上や稼働場所、稼働時間の短縮も意識的にすすめました。

#### 2) 省資源

##### ①コピー機カウンター数

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
カウンター数	99.7%	125.4%	×	部内、外部資料、会議資料、記録表等の拡大によるもの

### ◆事業系廃棄物削減の取り組み

#### 1) 生ゴミ排出量削減の取り組み強化

①歩留まり向上の強化：目標歩留まりを設定して技術のレベルアップを計り、歩留まり率の向上に努めました。

②原料の最大限の商品化努力：魚のカマ・アラ部分の商品化等を積極的に取り組みました。

刺身の切身作業時に出る端材については、「海鮮丼用」で商品化を行い店舗へ供給しました。他の端材は社内販売で商品化しております。

③不良在庫削減努力：発注数量の適正化及び棚卸業務の精度アップや、社内販売の活用で不良在庫の削減に引き続き努めました。

#### 2) 定期的なゴミ総量の測定を実施しました。

①毎月一週間連続で事業系廃棄物の重量調査を実施しました。

<2013年度再資源・リサイクル率> ( )内は2012年度比

総排出物量	再資源・リサイクル量	一般廃棄物量	再資源・リサイクル率
167.4t(88.3%)	140.8t(86.2%)	26.6t(101.5%)	84.1%

#### 3) リサイクル活動の推進

①印刷用紙の分別収集による裏面利用の励行(宅配納品用紙は片面使用)

②帳票用紙のカットによる再使用を全社員に徹底しています。

#### 4) 各種報告事項の順守に努めました。

①容器包装リサイクル協会への再商品化義務量及び委託料金を報告しました。

## (株)コープネットワークサービス(CNS)

◆2005年4月より環境事業リサイクルに取り組んでいます。2013年度はペットボトルの圧縮作業89t、商品案内・カタログ類の回収248t、発泡スチロール箱76t・卵パック25tや集品用の内袋など32tをリサイクル資源として回収しました。

◆施設管理部門では、LEDやCCFL(40Wタイプで28Wの電力使用となり約30%の節約)といった環境照明への切り替えの提案や施工管理も含め省エネの推進に取り組んでいます。洛北支部の太陽光パネルの設置に続き、新たにできる洛中支部での設置も受注しました。京都生協施設からの廃棄蛍光管の回収(2013年度:4480本)も行っています。

◆個配事業分野では、安全運転だけでなく、2013年度にグリーン経営認証を更新取得し、エコドライブ・燃費改善など環境に優しいドライビングテクニックの向上に努めています。SR(セーフティレコーダー)を2013年度には個配の全事業所に広め、CNSの全ての配送用車両に取り付け、省エネ運転の強化につなげています。

## (株)京都コープサービス

京都生協の本部オフィス業務に関係する運用手順に準じた実践に努めています。

◆コープ保険サービスでは、保険契約者へweb約款切替え協力をお願いし、紙削減に取り組んでいます。

◆コープハウジングでは、断熱窓などの省エネリフォームや太陽光発電、省エネタイプの給湯器・設備の普及に取り組み、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をサポートしています。

◆コープ文化サービスでは、車の長持ちを考えた車検「ながもちくん」やエアコン掃除などのハウスクリーンの取り扱いも行っています。

◆フードサービスでは、ボイラーや冷却機器の稼働コントロールに努めました。

※(株)ストアサービスは、京都生協の店舗事業の取り組みに準じて、環境保全に取り組んでいます。

## 職員による業務マネジメントシステム監査

### 1. 監査対象

4支部(宅配配送センター)、7店舗、その他6事業所・部局・事務所の業務全般

### 2. 実施期間

2013年8月6日～9月21日

### 3. 目的

- (1) 組合員に役立つ商品・サービスの提供ができてい  
るか、及び業務マネジメントシステムのルールや  
基準(系統の要領書や作業手順など)が守られてい  
るかを監査し必要な対応をとること。
- (2) 業務マネジメントシステムが効果的に実施され、維  
持されていることを監査し必要な対応をとること。

### 4. 監査基準

京都生協で定めた規定、マニュアルなどのルール及び  
基準

### 5. 監査方法

監査員資格者が基本二人一組で「チェックリスト」に  
基づいてヒアリング、記録閲覧、現場・現物を確認して  
事実を記録する。

### 6. 監査結果

#### (1)改善指摘事項 7件、観察事項 16件

4件の改善指摘事項・観察事項があった「職員能力の  
向上」では、職員との面談の未実施やCSR教育の理解度  
確認が不十分な事例などが指摘されました。同じく4件  
の「主業務」の項目では、価格エラーの発生、冷蔵庫・  
冷凍庫温度管理などが指摘されました。また「労務管理」  
の項目では、休日・出勤管理で不十分な点の指摘があ  
りました。前回の指摘事項が改善できていないなど、改  
善プロセスが十分に機能しているとはいえない事例も見  
られました。引き続き、改善プロセスを機能させられる  
ように、取り組みをすすめる必要があります。

#### (2)推奨事項 9件

店舗で、PDCAの進捗状況を掲示板で見える化し、  
課題の推進を行っている事例などがあげられました。

### 7. 監査対応

指摘事項があった事業所・部局では改善を行い、改善  
状況を確認するとともに、組織全体に報告し予防的な処  
置を喚起しました。推奨事項も支部(配送センター)、店  
舗など事業ごとに水平展開をすすめています。

## 外部審査機関によるISO14001 (環境マネジメントシステム)監査

### 1. 審査機関

財団法人 日本品質保証機構

### 2. 受審組織

京都生活協同組合

### 3. 審査実施日

2012年04月10日～2013年04月12日

### 4. 適用規格

ISO14001 2004年版(環境マネジメントシステム)

### 5. 審査目的

マネジメントシステム全体としての継続的な適合性お  
よび有効性、並びに認証の範囲に対する適切性を審査す  
ること。

### 6. 審査結果

#### (1)登録の継続・維持に関する結果

ISO14001規格(2004年版)に基づく環境マネジメン  
トシステムが維持されており、適切に機能していると判  
定されました。

#### (2)グッドポイント 1件

移転した洛北支部で、太陽光パネル(発電出力  
30.38kW)を設置し、また、2台の電気自動車が配車し  
たことが、環境負荷の軽減に積極的に取り組んでいる事  
例として評価されました。

#### (4)改善指摘事項 2件

産業廃棄物のマニフェストの管理に不備があったに  
も関わらず「法規制及びその他の要求事項登録表および  
順守評価表」の評価結果を「問題なし」としていた点で  
指摘がありました。

#### (5)改善の機会 16件

支部の移転や店舗の改装・修理などにおける環境側面  
の特定が必要な点、目標の設定や展開で、未達成の場合  
の対策とそのフォローが弱い点、職員による監査での、  
重点項目の絞り込みや監査員のレベルアップ、監査結果  
の分析による対応策の提案について、改善の指摘があり  
ました。

### 7. 監査対応

改善指摘事項は是正処置をとりました。改善の機会  
は効果を評価して取り組みを検討しています。グッドポ  
イントは推進と広報活動に取り組んでいます。

1 よりよい商品・  
サービスの提供

2 よりよい  
職場づくり

3 公正な取引と協力  
共同の関係づくり

4 より環境負荷の  
少ない事業・活動

5 地域社会の一員と  
しての役割発揮

6 情報開示と  
説明責任

7 健全で強い  
事業経営への責任

## CSRレポート2014を読んで

浅岡 美恵 (気候ネットワーク代表・弁護士)



消費者の最大の関心は安全、なかでも食の安全です。生協への信頼はその努力への信頼といってもいいでしょう。それでも事故は起こりうるもの。その際の真摯で的確な対応も、日ごろの意識と取り組みがあればこそ、です。全体を通して、CSRレポートを作成する機会を、消費者・組合員目線で事業活動を客観的に点検し、消費者に報告することを通して、自らを振り返る貴重な機会ともとらえていることが感じられます。

近年、ワーク・ライフ・バランスが叫ばれている一方で、不規則な働き方や長時間の仕事が増え、時間をかけて食事を作り、家族と一緒に食事をとるといふ、これまでの生活の基盤となってきたことが難しくなっています。高齢者の家庭や単身家庭もさらに増えていくことでしょう。

組合員の「少量化」の要望に応えた品揃えの例が記載されていました。多種類の鮮度のいい素材を用いて、一人分や二人分の惣菜をおいしく手作りして、家族と一緒に食事をとるといふことは、今では贅沢な願いとなっているのかも知れません。少量化の要望も、そうした実情の反映でしょう。小売業の経営は厳しくなっていると思いますが、時代の変化や地域の暮らし方の変化を敏感にとらえて、迅速適切に対応できるかにかかっているといえます。

地域の大きな変化の一つは、高齢化世帯の増加です。日常生活の買物が負担となる年代は、健康問題を抱え、消費者被害のターゲットとなっている人々でもあり、誰かの「見守り」が必要な層でもあります。生協は、宅配事業という地域密着の業態を長年、継

続してきました。そのなかで、早期に危険を察知できたこともあったことでしょう。今、行政等との間で、配達時の見守り協定が広がっているとのことですが、実績あつてのことと思います。ぜひ、府下全域に広げ、少しでも早く危険に気づき、専門家に繋いでいくことで、大きなセイフティネットの役割を果たしていくことを期待します。

しっかりした環境方針を持って、省エネや物資消費抑制等に取り組み、継続的に検証して目標を設定し、市民の太陽光発電事業に協力もされています。ただ、全体のCO<sub>2</sub>排出量等の増減や目標達成の程度の数字だけでは、実績の評価には情報が足りないと感じました。

事業活動の拡大には床面積の拡大が伴いますが、小売業種における床面積当たりのエネルギー消費量やCO<sub>2</sub>排出量のデータも集積され、比較できるようになってきました。京都生協全体で、閉店やリニューアルした店舗が各2店あったことはわかったものの、店舗の総数や床面積、その増減の量がわかれば、全体像をより理解できます。相対的な効率水準を知ること、対策の余地の有無も見えてくるかも知れません。業態別(燃料別)のCO<sub>2</sub>排出割合が示され、一部の店舗でのLED化による効果は大きかったことが記載されています。電気の割合は大きいようですので、環境マネジメントシステムをKESステップ2SRに変更されたのを機に、削減の余地がどれくらいあるのかを試算し、設備の更新計画を立てていってはいかがでしょうか。

## 第三者意見を受けて

(専務理事) 畑 忠男



今年度も、京都生協が考える社会的責任として、7つの項目(①よりよい商品・サービスの提供 ②よりよい職場づくり ③公正な取引と協力・共同の関係づくり ④より環境負荷の少ない事業・活動 ⑤地域社会の一員としての役割発揮 ⑥情報開示と説明責任 ⑦健全で強い事業経営への責任)に沿って報告をさせていただきました。

ご指摘のあったように、ライフスタイルの変化や高齢者世帯・単身世帯の増加に伴い、私どもの事業にも少なくない影響が現れています。「少量化」の要望に応えた品揃えもすすめていますが、組合員(消費者)の暮らしの変化の状況を考えると、さらにスピード感を持って対応をすすめる必要を感じています。

地域の見守り協定については、2013年度時点で府下13市町と締結しました。実際に配達現場で担当者が気づいたことから命を守る貴重な事例も生まれています。担当者が、感度を高めて異常を見逃すことがないように引き続き事例の共有をすすめていきたいと思っています。

環境の取り組みについては、基本的な取り組みの評価をいただきましたが、一方で情報量の不足もご指摘いただきました。環境に関わっては、多くの数値や評価基準が存在するため、限られた紙面の中で、どのような情報を発信することで、何をお伝えすべきなのかは、毎年悩ましいところです。今後は、詳

細な情報については、ホームページ上で紹介をし、レポートと連動させるといったことも含めて検討をしていきたいと思っています。

エネルギーの使用については、ご指摘のように店舗での電気の使用量の割合が大きく、これまでも店舗のリニューアルに際しては、LEDの活用など省エネ設備の導入に努めてまいりました。設備の更新計画については、各店舗の損益状況も見極めたうえですすめる必要があるため、慎重にならざるを得ない部分はありますが、新しいマネジメントシステムの中で進捗管理をすすめていきたいと思っています。

50周年を迎え京都生協が、より一層社会的責任を果たせるように、引き続き努力をしてまいります。

貴重なご意見・ご指摘ありがとうございました。



1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任



## 京都生協のプロフィール

### ■本 部

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

### ■理事長

渡邊 明子

### ■設 立

1964年11月27日

### ■事業活動エリア

京都府全域

### ■事業所

支部12 店舗19 介護事業所8(デイサービス2ふくむ)  
葬祭事業1

### ■子会社・関連会社

5社

### ■2013年度概況(2014年3月20日現在)

- 組合員数 50万7496人
- 事業高 715億1060万円
- 出資金 153億9223万円
- 職員数 1738人(7.5H換算)

●対象期間／2013年3月21日～2014年3月20日

●対象範囲／京都生活協同組合(全部局・事業所)



## 編集方針

環境や社会とのかかわりにとどまらず、組合員、取引先、職員、地域コミュニティーなど「ステークホルダー(事業活動の関係者)」全般に対する京都生協の社会的責任をISO26000(社会的責任に関する手引)を参考にまとめ、特徴的な項目を選択しました。

CSR(Corporate Social Responsibility)とは「企業の社会的責任」を意味します。「CSR=企業の社会的責任」という理解が定着していますので、生協の社会的責任についても「CSR」という言葉を使用しています。

編集発行及びお問合せ先

## 京都生活協同組合 CSR推進室

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

TEL 075-672-6304

FAX 075-661-4311

ホームページ

<http://www.kyoto.coop/>

公式フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kyotocoop>

発行／2014年5月